



<N0176>

シャガ（著莖・射干）

シャガの学名（ラテン語で表記）は「*Iris japonica*」＝「日本のアヤメ」である。日本の環境によく馴染み、繁殖力旺盛であちらこちらに見られることから日本の固有種のように思われがちだが、中国原産で古い時代に日本に入ってきた帰化植物である。

種子はできず短く横に這う根茎で増える。人家の庭先のほか、集落近くの森林の木陰などに群生している。

外側の3つの花びら（外花被）には黄色と紫の斑紋があり、縁にはギザギザしたフリルがある。内側の花びら（内花被）は白っぽい紫で先端が2つに分かれている。凝ったつくりの花であるが、1日でしぼんでしまう（一日花）もったいない植物である。アヤメ科の常緑多年草。



<N0177>

ムラサキサギゴケ（紫鷺苔）

春の温かさが増してくると植物は一斉に活動を始め、躍動的に季節の移り変わりを演出する。田んぼの畦道にはムラサキサギゴケが姿を現し可憐な花を咲かせる。オオジシバリやコオニタビラコ、オヘビイチゴなども咲き乱れ、花を踏みながら歩くのは気が引けるほどである。

ムラサキサギゴケは、花の形を鷺（さぎ）の飛ぶ姿に例え、地面に広がる様子を苔（こけ）に例えたものである。

本種を図鑑やインターネットで検索していくと、ゴマノハグサ科と表記するものや、ハエドクソウ科やサギゴケ科とするものなどがある。近年に被子植物の分類体系に変更があったため、ゴマノハグサ科から新分類ではハエドクソウ科に移されたのだ。検索時にはご注意ください。